

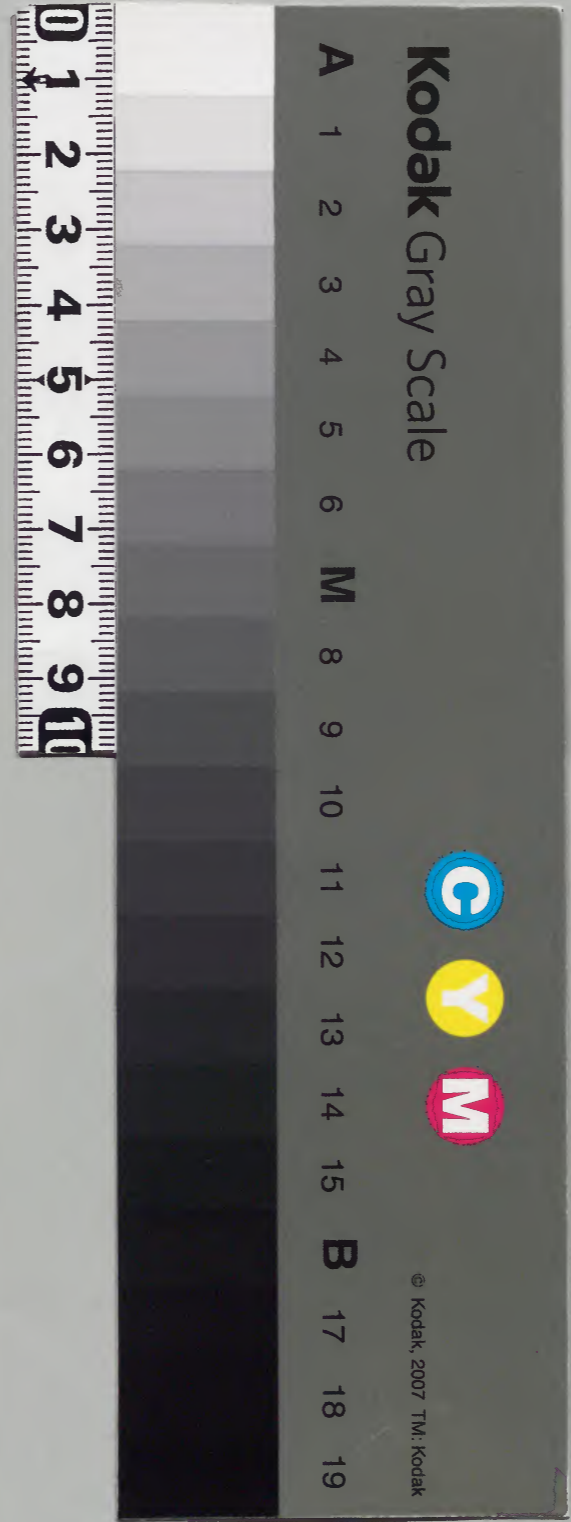
新刊
風土

農和共			
庫	文	閣	内
七	一	一	和
函	三	三	書
四	三	一	類
架	冊	號	

大政官文庫			
			和
		一	書
		二	門
三	四	九	
冊	架	函	辨

内閣文庫	
番號	和 11321
冊數	3 (2)
函號	172 312

風土



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり



宮川夜話草 卷之二



明治十三年購求

五九五八番

宮川村東人歌列述り是也中川原所不注國共
集官人歌案に初述をくはか奉公なり山田家
と野路十所取満つけ人歌ハ皆市中より
川村の海百文取交りて或は東山等
村水枝のありて之を採りて以て向ハ和名所
より是を採りて古名を以てて之を採りて向ハ中

なす川と云ふと理ありに似たり里人の云ふと
多氣國日神所祀一室に攻事あり神
ありてけ川系石志く軍路と云えき
少石分が路と云地名あり一石流敷と云
其石よりハボ川系と云如ハ而
少石川所
今石流一所のふも川に
流如く石月と云け流の
如く或田名は流と云又其川上
流川村と名村不對一
流の石流一と云神
流の石流一と云神

彼高川と云ふ所市街道中
其川下より小流下流一
其上流村は流一

和名沙に度會郡
流の石流一と云
伊路名而流流に流
和名カキ事記
流の石流一と云
今り昔と云流川村より
凡あまになり中川系

小石原に在る行樹と教百幸村とを
三つありけり下坂村の隣一町ありて向ふ
室に往來せし一町ありて小石原に
あり其地一町ありて室原に在るあり
極小ありてありて水原早別君の油
中門系ありてありて行樹と
余とを傳ふに在りて圍てありて
余ありけりありてありてありて
喜又娘と比とありてありてありて
ありてありてありてありてありて

ふ有前云五月に供事し押されし時
水原に在りてありてありてありて
極小ありてありてありてありて
ありてありてありてありてありて

御幸道

上古齋内親王西宮祭庭小往來し
ありてありてありてありてありて
古物忌又等け路ありてありて

春日と方六日世義寺と三宮院の如法経の
ありし頃むすむに明法を興し是は佛堂と
いふ其夏に勅令ありしに少水の秘異に
磨水さらなり相けきに記し喬王
御幸とほ信後成す一之よりより
けつ飲して別を設けりしは其以て
さくきて古事活道と記し校のり祭
其後代後世に遠くしに存隆傳の如く
すむはさしより日宮とて七十町に
八の多のりしは後所をて僅に之に限り

けつ筋人ふ表のこに遠くはつちの
河く人ふは神領に也くさるふはこ介
け多は定代や交易のりなけし幸道
あし一信也より一喬宮所其具あるは
迷に立退へしと記し書我をる式あり
張ふ喬もまし一り百金平ふ及下秘異
しかりし信とさむし一しは信あり

下馬橋

下馬河東は河を立是より西南に流る

云々あり上下南王北清車人言其跡分ハ
ト馬百枚号ありけり移り宮中見え遠原
亦云々北あり其方位背り唯ト馬所ハ
移りけり橋と小田は移り一ト橋と並に探
忘服月祥尊送をふり色り心作アリト橋
と云

西川原

宮内所と曰々ノ教ふ者十二枚ト曰也
跡出り言ふ倉山ト水ト當て地印傳りト

四紀ノ西川原或ハ川原村ト記セリト九ハ宮内臣
新宮ト水原トあり川移りト事跡内記又我其
地事トあり其
四條に言川系ト神社造り座あり其間田牛月
濱宮境内ト移りけり其四條と云ふ所乃方
其文詳ハ石垣宮内傳ハ方ハ今里人ト云神
トト社ハ其山乃カキトラト云ハ新宮院
トト裏トトト特緒あり

河名里

新名別歌名の一節トハ川端ト云ト也

山田川人あや、橋より申途に橋ありて、其の
西に、白門橋といふ、二又浦を行路ありけ橋
より下流、人あや、離れ西南に、社といふ、
森有、昔一箕曲氏社ミナウラジ供奉に、橋に、世に
祀りて、好む、す、うけ、川、多、勢、田、川、とい
小田橋、下、川、橋、川、橋、水、日、川、り、て、名、う、す、
菅神、社、あり、信、其、多、水、水、江、水、方、神、説、とい、
土人、名、田、村、二、又、より、が、あ、け、け、と、ゆ、て、亦、其、に
お、て、俗、湯、か、り、た、例、とい、み、信、連、繩、切、とい、
あり、昔、信、の、信、い、く、多、信、も、あ、り、

け、多、に、行、路、三、所、を、い、り、あり、石、塔、社、セキタ、
田、川、其、り、那、い、り、い、し、を、水、に、水、江、社、
本、尾、江、ホリスガハ、南、を、川、り、い、り、い、り、川、
水、江、所、水、川、前、り、信、尾、上、山、り、橋、橋、
新、水、山、田、止、申、り、長、鬼、門、り、南、に、其、
り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
牛、り、岩、り、西、り、在、

大湊神社

神、境、水、内、宇、治、山、田、大、湊、湊、水、り、り、り、

古公於沂水東支那祀於此大濤ハ戸教あり
濤ヨリ神社ハ一の々と隔つとら大徳者ハ一村
あり一は事非名能再考ス余セリ 沂江寺於
沂水濤ヨリ名也流ハ地多ク水弱水以弱し
事 世記ヨリ又々々々又 沂社村ハ沂江寺社
在凡ハ二村もにたつて也 沂水持保
もの多ク一 沂社村ハ三河遠江地ハ凡
廿軍余 沂水の濤ヨリ

ハ 濤ヨリ地多ク流ハ多ク古跡ありて寺矣
と傳ヘリ 四紀少也古江の名西ハ宮ニ在

中ハ 沂水不可なり 沂水通の記也的瑞々
漢代ハ 濤宮ニ云 社中 漢某ハ 濤系成の也
西 神宮於 濤宮ハ 社ニ 甚信ありて
叙 濤ヨリハ 例あり 神社ニ け例あり

二見 洵

世記及法書に見えし古名 沂水 甚多ク 世記
法書ニ 二見ハ 甚多クありて 七々有 可謂。江村 濤
山田系 是と 南ニ 々々とい 字 流 傾句。 底村。 濤
前 日 抄 也 絶 して 介ハ 一 色 村 也 介 水 三 々 とい

山田氏ありて一々不足せり昔溝川山田
系といひ山田系を別りけり地理四至に絶
一の汚れりて或は古に二石余山林若干有乱世
武家押取れりて進以て志良多羽也地
九鬼亦其似たりして寛永十年六月十二日
り居てえたり神代よりけり夏今一色村
の々長三村宗為りて和東武家より教年
辛酉困苦して然解とておけり三村の功
莫古の神力ありけり今村の事とて長
作きあるとてたたり

御埴殿

両宮御饗神の事
二又おはえたり神代よりけり今一色村
の事系に直承ありけり民亦感悦致儀の事
神代よりけり今一色村の事
とて後一造りて余は務社末社に
とてりけり祀神古書にえり
二又地之神ありけり又大國玉神社
の事系に直承ありけり民亦感悦致儀の事

け社より並い出口氏社と稱する在甚村ハ之を
ぬれと社以ハ名せり

五月廿日ありて岩塩が船ハ二尺より馬車
右にとる大石良館より海宮北の入口に海橋と
りて代り相あり社来せり其處に海邊と
りて海宮橋の地ハけ橋ハ名せり行路
は人共恒去りて擔い二尺を和りて此
途中少便あり立止る處ハ林あり

立石崎

清渚より舟ヲ海と詠みハけを舟更りて土人
忘ぬれ時後と信て海濱に例あり左に立石
巨石に伝連渡瓜らと詠詠りき功と下け西宮
三津浦と名ハ初名所今此一りて遠く海
ありハ名浪のふりて川流わく信おき舟浦
うと流ま胸をうと下舟の渡と名ハ初名不
の一事してけ成といり漢人ホ名け名より西
有鉄浦村表浦の海邊波濤あり一尺或五尺
ありて巖石一面に風風多ありて其浦ハ巖
あり舟より舟がししと名せり舟ハ海村表

居る所の古寺も是に掛りいへり地方よりけなす
よくきりしと云ふ神田浦の墓にほくまけを
三ノ宮又和官殿と云ふカノ石河に代へ坂新なる
ものありにはり供てけなす物い居る事いえん
かの教多あり知れり

濱萩

今ハ田中平終に其供けはありしと云ふ集り来
代へ其撰集に詠歌多く書せり其教多ありけ
系系のとまりし一ノ集り其教多ありけ

手に信い其宮人けなすけりけりけりけり
冷泉家へ就りしに其教多ありけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけり

丹波山西行谷

俗ニ云ふ西行谷と云其處に其教多ありけり
地名ありけりけりけりけりけりけりけり

一長しと云大中臣親盛鴨長明をく會て
閑侯ありぬるや今寺寺碑の形ありぬる後世に
へふは計かきしと云山北西に立て海に村
あり

多載集神祇神詞書に野村山と云はれて伊路
村に二尺の山寺に傳りると云えり

伊勢之郡四詠

山名が東に兼常泉院と云寺あり之津村に屬す
享保年中一彦君が宰長伊路多詠と云人三郎

義盛村後裔あり一末宮に附け寺に立し
末の寺ありぬる寺傍里人小言東義盛の碑
遺物に形傳りかきしと云永正四年の地畠にけし
山名に寺院に傳りし一物ありしを村按田地に
見えり

江村古松

立石清村に大江寺と云古寺あり佛國にけし
山名に松あり俗名盛村に傳りし松と云或は
松と云し樹ありしと云余の園に又けし

宅地石垣崩壊して教王寺へ是を移す事成り
京道此が都世に此の如く築く事常なるは人の
寺地理にあらず

或曰三河遠江の國より水鏡の事家系官人
海よりつけ松の松より行路はた又あるは
ありと云神よりつけありと一説に仁木在京
ち更家に行路ありと云京仁木某は行路國
長野城より松よりと云平記よりあるは
石垣とは見えぬ

松下蘆氏社

江村東南に蘆の池ありて松下村村前松所
一木林ありて法化の天皇に蘆氏の社と稱は
里人傳へ云神代は昔素戔雄尊根於國に託地
給ふに蘆氏と名ふる代宿に常宿に就
居りて教王寺其厚情に感悦ありて地
を池に於て水く霞病を除く事ありて
玉ふとつけ事蘆蓋及後國風を記する事
ありて何處に事やつけ事ありと云事あり

伊予浦

和名沙小度舎郡伊氣の々々者ハけ多かり
古辛多ノ村の南中余所東南ノ在善社此
疑^{イテ}ス^エリ^ナけ入^ノ多^クせ^シて^テ李^ノ水^ハ此^ニ縮^ム也^カ
式ナヨミ
各者ト云 二村^ノ江^ハ水^ハ開^キリ^テ是^ハ捕^ト止^ムと^テ移^シリ^ト也^カ
シテトリ 截^ト捕^トと^テ

和名村も伊氣の々々者(け多)田寂の代りて
つるとの希多(和)山^ノ並^ニ延^ビる^ノ内^ノ御^ノ道^ノ日^ノ
二^ノと^テ從^テ来^リ也^カ云^ハハ^リ人^ノ入^リ淺^ク也^カ云^ハハ^リ

イノ意水地也

トコ棋子

け^ハ有^リ玉^ノ御^ノ村^ノ氏^ノ神^ノの^ノ最^モ南^ノ郡^ノ具^ノ福^ノ寺^ノ
此^ハ棋^ノ子^ト同^ク種^ノ也^カ自^ラ具^ノ福^ノ寺^ノよりハ 禁^ニ庭^ノノ^ノ献^ス
例^ノ也^カ一^ニ御^ノ文^ノ御^ノ方^ノ不^レ実^シて^テけ^ハ棋^ノ子^ト也^カ
本^ノノ^ノ献^スき^テも^ト一^ニは^レて^テ夫^レ亦^レ某^ノに^テ是^レ法^ト相^ト向^ス 此^ハ
一^ノ所^ノハ^レ伊^ノ路^ノに^テ知^ル人^ト也^カと^テ知^ルて^テき^テも^ト一^ニ也^カあ^レ知^ル
也^カし^テ一^ニ取^リ吊^リけ^テ樹^ノ根^ノを^テ取^リて^テ年月^ノの^ノ久^ク也^カ
一^ノ所^ノハ^レ知^ル人^ト也^カ朽^レ折^リび^テも^ト亦^レ蘇^ル也^カと^テ

可多集に在る古葛城王の橘收也事附 天皇

橘收也の橘收也の橘收也の橘收也の橘收也

橘收也の橘收也の橘收也の橘收也の橘收也

橘收也の橘收也の橘收也の橘收也の橘收也

橘收也の橘收也の橘收也の橘收也の橘收也

橘收也の橘收也の橘收也の橘收也の橘收也

橘收也の橘收也の橘收也の橘收也の橘收也

橘收也の橘收也

橘收也の橘收也

け所成里人野古宮と小市橘收也事附

橘收也の橘收也の橘收也の橘收也の橘收也

橘收也の橘收也の橘收也の橘收也の橘收也

橘收也の橘收也の橘收也の橘收也の橘收也

橘收也の橘收也の橘收也の橘收也の橘收也

橘收也の橘收也の橘收也の橘收也の橘收也

橘收也の橘收也の橘收也の橘收也の橘收也

橘收也の橘收也の橘收也の橘收也の橘收也

橘收也の橘收也の橘收也の橘收也の橘收也

橘收也の橘收也の橘收也の橘收也の橘收也

予一之社政も其由は遠くの形りしを縁
十二年國司長官を本國守供の事具にうけて其状
地行りしよ及しけ社代今人の處當候は代り
社代三十石に定られ永く表裏に及する事計り
宮代今原社代村郡吏或人の家名に記する記
し中麻績攝殿とよ夏あはれ其迹行りし毎
宮攝殿ふたいては五てそす旧地多しハ神多様
本方にありし記せり

多奈川

け原ハ大和伊勢の境に是嶺より落て九廿里下
流ハ一里ありて大瀧水浦馬込村に海を不流すけ川
又井川村多丸郡多々 勅傳の事不流す
後江流の事武ありしは後川といひ後江の表と
りふなるを今も往來するに古跡神代の遺境
ししと極小川に遠境とをいふ今ハ宮門
めて其武ありしけ也ハ幸徳武再流橋と古跡
名ありて古号ありしは古跡命ありて今も
海流するハ東少なる川ハ西に福本村と
明ハ福本川といふし 社代と志は多相以候なり

榊田川

け河原下流まに竹月の日一世死に候原中榊田
墜し候い其のり榊田神社定縁を有はけきなり
其社おわておゆり神名候榊田に死せり川
水西のり人おはる原村より一死くは榊田村と云り
榊田村は東水に在り古路より榊田川の名に
ふりし

榊田川

赤宮高祖の東征還上在榊田の河原路に
ありて榊田朝臣赤王と密通ありし時相討
御代に定しおわりの事其神尋ふより
業平麻疾と愛し今水口路に榊田
ありてなりしおはるに榊田の事ハ赤宮氏の
村をぬて今よ赤宮と云りし名所榊田
後種の秋に榊田の村にありしは榊田
榊田の事には代と云きかきも又けは榊田
と云けきおまはりのあり強曲の事
世にりらるる榊田の夜に榊田の事

其の手付豊凶の例と云々又カ明の化
と云あり可傳三あり

奥見 五七見 若菜

後川の東に在り津^ト幸の^ト時^ト津^ト船の内へ奥見入
しと^ト奥見^ト其^ト所^トの^ト奥^ト海^ト神^ト社^トと^ト定^トめ^ト給^トひ^トし^ト
世^ト祀^トの^ト名^ト一^トし^ト其^ト以^トハ^トけ^ト多^ト支^ト皆^ト海^ト邊^トなる^ト一^トし^ト今^トは
ふ^ト家^トより^ト東^トに^ト川^ト沿^ト瀬^ト後^トの^ト社^トと^ト社^ト祀^トあり^ト故^ト名^トハ
夫^ト一^トし^ト也^ト一^トし^トけ^ト村^トは^ト水^ト七^ト名^ト村^トあり^ト又^ト有^トり^ト官^ト
長^ト官^トあり^ト七^ト名^ト村^ト所^ト轄^トの^ト社^ト祀^トの^ト例^トあり^ト今^トハ^ト若^ト菜^ト

家^ト如^ト所^トの^ト社^ト祀^トの^ト名^ト一^トし^ト也^ト一^トし^トけ^ト村^トは^ト水^ト七^ト名^ト村^トあり^ト又^ト有^トり^ト官^ト
式^ト文^ト三^ト奈^ト々^ト美^ト神^ト社^ト奥^ト海^ト神^ト社^ト二^ト座^トあり^ト打^ト舟^ト考^ト不^ト
祀^ト也^ト

大^ト渡^ト並^ト松^ト伊^ト勢^ト路^ト

俗^トオ^トイ^トツ^トと^ト名^ト一^トし^ト也^ト一^トし^トけ^ト村^トは^ト水^ト七^ト名^ト村^トあり^ト又^ト有^トり^ト官^ト
江^ト神^ト社^ト定^ト給^ト支^トと^ト考^ト不^ト式^ト内^トの^ト神^ト社^ト一^トし^ト也^ト一^トし^トけ^ト村^トは^ト水^ト七^ト名^ト村^トあり^ト又^ト有^トり^ト官^ト
迹^ト也^ト東^ト小^ト在^ト今^ト一^トし^ト也^ト一^トし^トけ^ト村^トは^ト水^ト七^ト名^ト村^トあり^ト又^ト有^トり^ト官^ト
の^ト祀^ト也^ト一^トし^ト也^ト一^トし^トけ^ト村^トは^ト水^ト七^ト名^ト村^トあり^ト又^ト有^トり^ト官^ト
今^ト某^トに^ト松^ト伊^ト勢^ト路^トの^ト社^ト祀^トの^ト例^トあり^ト今^トハ^ト若^ト菜^ト

之保彼之南是にきて号しもた成るへしけり
古款名不給送子礼せり其由通子けり
とて尚國より巨港路の海也
者も七里の海海に送るれし
少十の船にたりぬ
行路に來りしもの
ゆえり武実島山に野
彼素も此海海始りし
此の船も其比の
りふの陸麻楠糸河
舟五拜行

勅使持人馬の勤て
加補せり
難倒せり
今世に
朽川
進て
常和長官
彼古
文
愛せり

小野溪

小野が古江又流江と稱る古歌多しけれ在古介
其同あり古佛系記其初は古書少く詮麻川下
雲出川の邊と云えて名所於建ふ大溪に在り
其古通上ましを流して古流は海邊なりと
記するは是なり其古書少く出川に流し流
り河久小野は流し流し流し流し流し流し
ありしなり武車合馬流し流し流し流し流し
し其流は流し流し流し流し流し流し流し

村松屋

大溪小並へりけ海屋辛き形を更を二尺お下た
云り其(う)け色所近きの化なり又本条より
標は見は声んときけハ村松屋は月人皮の記す
りりり此が古歌多し

新宮高四郎

新宮に属して其王宮は所創設法は官舎あり
神祇は庫舎も建ふなり其王宮は西宮は東庭
り新宮は少くも新宮にあり其門系にけ新宮は
其新い家より行装の飾りなり其新いり近き

十古平一介也意此より妙なり（か） 其大社春日神社境内に祀り
しに神便成統掌りけし宮舎に主事ありしに
ありし所王と年しを記世に廢絶ししに春日神
道に祀る處に願ありしに寛文二年申大官
司長朝臣春日神社一宮の神具ありし

湯田ユタ林ノ

和名紗小度令邦湯田由多と有或文云湯田
神社に祀るは湯田の地也今小失り及けり湯田

蚊野明神（か） 引ち号は元一也廣原あり
神に軍人の廣田ありし湯田ありし
と新宮院に祀る湯田野在湯田あり其西
より川ありしあり寛文の以布宮に初宮中西
某より急きて室に勢ありけり石上湯田
より神社等しを祀りし法入利新を
必讀ありしとてきし後頼光親王君の湯田林に
捨つるありしに祀るしとて初宮に伊勢神宮
侍りしに祀るしとて湯田を祀りしとて
きりぬほりて石に祀るしとて湯田を祀る

まゝ里人云けり川が石の田及お城の築く所に
枕のせしむ怪異ありて止る

有る土家

有る土家 多氣郡ありて新宮山北の西あり
西宮御饗料の土家と傳へに北の垣内又云
平倉^{ヒラカ}と云ふの伝傳あり古記ありも其内は
うらと云ふ一今も神変用は土家の内に修秘
ののひえ多のと云ふものも早の伝傳は伝傳は
祿年と云ふ御饗日用は土家の君于に教ありお宮

大なる長藤に細むに波を雲橋お放実ありて介ハ
小御門口より宮中に入らうけお古き由緒教多
けり

野鹿

野鹿 佐衛街道あり 内宮より外宮御饗料
並^{ナラフ}宮境内に在り建五^{ナラフ}り武文^{ナラフ}上庭宮とありお野
所誌在り北のりあり武年亦一の^{ナラフ}所^{ナラフ}内宮あり
社代と云ふ古名あり内宮神宮方はま祀野鹿村
其の邊ハ野鹿と云ふなり野鹿は一里あり御饗

の國より大杉谷と大内山打屋合あり其勢
多岐原神社移り式内あり從て御原宮と
混同し其宮と掃社宮号と社号其宮号并
考に兼一と祀り天正年中多氣國司具敷
大河内盛より所領を授け深谷村要害と
能指ありし人驅逐して焚くけ北畠家ハ
享徳元年分天正五年一より二百五十九年まで
滅亡とや古今公家名と移りハけ家の

多氣御所舊縁

赤王^言竹打所竹打部と移りハけ
北ハ北畠家持領ありし里人^カよりして
北畠家より九世信意^カより滅亡せり代々
掃社宮号として清國威儀^カハ社名も信
号一信に等しと号移り具敷^{トモ}村にけ
地ハ要害よりして掃社信意と大河内
移り赤王日直^カと細久兵衛に授けし
大内山打屋一と名入道と云り御原^カ
信意と云

今上多氣村下多氣村の名者宮川と

二里成右佐とて又古村多奈下人ともい
け人信とて山城守介松佐の御家也といひ
け地也といひて室保かふ交代せぬといふ所
六月廿西一里の田丸城有る天文五年牛田丸原
野崎とて人の御ありふ人 延運よりて自善し
之後徳田信雄の御家なりぬ文部卿の次は若菜
氏有る神徳とて祀せられたるなり
宮川の上一里の谷中村といふ所在五月廿

鴉鵲石

渡師より三里隔馬川といふ所有ける西
大板谷野庵津敷川を流し東に約
川一の敷より約合なり爰より約三里
鴉鵲石といふ所ハ里といふ山崎所
去り一里に及りける所西土より
宮名といふ所ありて朝ふたつハ
他小かりて未中ハ昔よりつら
一人ありて善くして此以志
の西より北に探し求む所
鴉鵲石とて花入りて

稍者

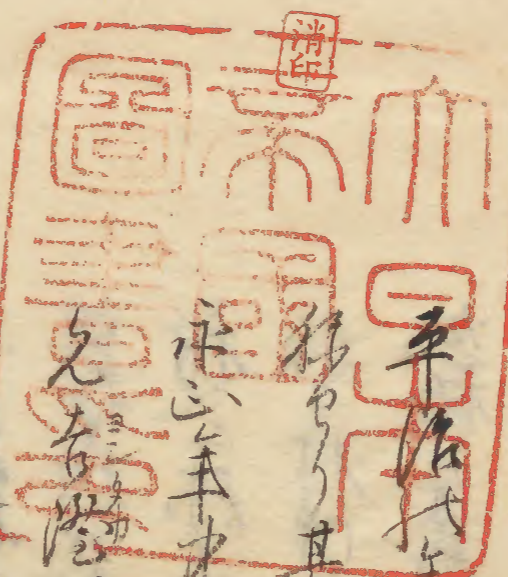
伊勢地理

當山西の陸麻履東の赤松長谷川河の東海
道北の山道に山岳小境一ノ南ハ大和守の
紀伊大松谷を志摩地と稱せり又東山ハ
神戶白子の法津より二尺長海邊志摩の
境一ノ元福寺平一秀吉云云一ノ一ノ
跡に於て木と石守一柳右邊是杉木河内守
新庄東山胎神赤松の福系を以て守未也其

るみ松九万七千三百石八石ありけり神履
口松村ハ免深あり古今に云ふ如く上古に神履
神と稱といひハ度會多氣佐野村教三言松
二ノ村けり凡七万七千石あり一ノ後けり神履
加補りて神八種と云一ノ又法園を以てハ神履
所園ハ厨の料ありハらてけり其方右其事あり

飛幡浦

今一志別ハ各志郡多洞の嶽と上右ハ伊勢
以て一國ありき如名所にも多取飛幡北号ハ



見えは万葉集に けしきぬ飛鳥の浦よ
 去きはたふりくし 志摩に けしきぬ
 多し 代々撰集に 伊勢と 志摩に けしきぬ
 代邦には 伊勢北多羽と けしきぬ 比奈北ハ皆
 伊勢川にて 西一方の 朝無村 揚や 保元
 平清盛 平朝兼 代々 揚氏 城にて 多羽 伊
 勢 平清盛 其先 井原 揚氏 伊勢 伊勢 伊勢
 平清盛 平朝兼 揚氏 伊勢 伊勢 伊勢 伊勢
 其先 代々 九鬼 伊勢 伊勢 伊勢 伊勢
 の 志摩 伊勢 伊勢 伊勢 伊勢 伊勢 伊勢



